

1 ゴールの判定

- ・ボールが、ゴールポスト間を完全に横切ったときに得点とされる。

2 競技の中断と開始

- ・ボールがコート(フェンス)から出たときは、その地点からコート内3m以内の地点で相手側のフリーストロークを行う。
- ・ボールが、3秒以上膠着状態になった場合、その地点でフェイスオフを行う。
- ・シューティングライン内での反則でフリーストロークが与えられる場合、次の方法でゲームを開始する。
(攻撃側の反則) 防御側は、反則地点から3m以内でフリーストロークを行う。
(防御側の反則) 攻撃側は、シューティングラインの外からフリーストロークを行う。
- ・ゴールラインより後方での反則は、次の方法でゲームを開始する。
(攻撃側の反則) 防御側は、自陣のゴールライン上からフリーストロークを行う。
(防御側の反則) 攻撃側は、敵陣のコーナーポイント上からフリーストロークを行う。
- ・ペナルティストロークのときはタイマーを止める。ペナルティーストローク時は、シュートするプレーヤー以外のメンバーはセンターライン後方に立つ。シュートが失敗したときはペナルティポイントから守備側のフリーストロークによりゲームは再開される。

3 主なファールとその対処

ファウル名	解説	対処	
		FS	PS
キッキング・ザ・ボール	ボールを踏む、蹴る。	○	
ハイ・スティック	スティックのブレード部分を、膝より高く上げる。後方へのテイクバックについても同様とする。	○	
スライディング・ストローク	手や肘をついたり、寝そべてプレーする。	○	
スローイング・ザ・スティック	スティックを投げる、落とす。	○	
ハッキング・ザ・ボール	腕の付け根から先、または首から上でボールに触れる。	○	
ダブル・ストローク	フェイスオフ、FS、PSをした選手が、続けて二度ボールに触れる。	○	
クラッシング	スティックで相手選手のスティックを打つ、押さえる、持ち上げる。	○	
ステップ・イン・オフENSE	相手チームのゴールエリアラインを完全に踏み越す、 <u>ラインに接地している場合は反則とならない</u>	○	
ステップ・イン・ディフェンス	味方チームのゴールエリアラインを完全に踏み越す、 <u>ラインに接地している場合は反則とならない</u>		○
チャージング	相手選手に対して、押す、つかむ。	○	○
スティック・イン・ゴール	スティックをゴール内に入れる。	○	○
プッシング・ザ・ゴール	ゴールポストを動かす、握る。	○	○
オーバー・ザ・エリア	ゴールエリアを飛び越える、またぐ。	○	○
ファール・スティック	スティック全体が膝より下の位置でプレーする。	○	
オーバー・ザ・ライン	ペナルティストローク時、ボールがゴールラインを通過する前に、選手が前方に移動する。	○	○

※チャージングの程度に応じて、選手に対して警告や退場もあり得る。

※「FS」：フリーストローク 「PS」：ペナルティストローク

※チャージングの程度によっては、選手に対して「注意」をする。同じ選手が1試合中に2回、チャージングのファールをした際は「退場」とすることもあり得る。

※退場したプレーヤーに代わるプレーヤーは、サイドが変わるまでは競技に参加できない。

4 過去の実技研修会より、本大会におけるルール適用の確認

(1) ハッキングに関して ※以下の説明はスティック以外での操作を想定しています。

○ファールにならない例

- ・静止した状態で、頭と肩から先を除いた部分でボールに触れる。
- ・かかとが接地している状態で、足裏を使って転がっているボールを止める。(図1)

○ファールになる例

- ・頭や肩から先の部分でボールに触れる。(手で止めてはいけない)(図2)
- ・体が動いている状態でボールに触れる。
- ・体を引きながらボールの勢いを弱めようとしたり、ボールの軌道を変えようと操作したりする。
- ・ゴール阻止のために手で止める
→ペナルティストロークや認定ゴールになる場合がある。



図1



図2 ハッキング

(2) ステップ・イン・オフense (ディフェンス) に関して

- ・ゴールエリアラインの一部に接触していれば良い。ラインを踏み、シューズの一部がゴールエリア内に入っている場合でも、ラインを含めたゴールエリアの外側にわずかでも接地していればステップインの反則にはならない。(図3~5)
- ・ペナルティストロークを打つプレイヤー以外は全てハーフラインより後ろで待つ。成功時はセンターでフェイスオフ、失敗時はコーナーポイントからフリーストロークになるため、リバウンドはない。
- ・ゴール成功、失敗の判定の前にプレイヤーがセンターラインより出てしまうとやり直し。(ゴールしそうなどのときに相手プレイヤーが故意に飛び出した場合にはゴールを認める場合もある。)
- ・ペナルティストロークでもハイスティックやオーバータイムなどの反則は摘要されるため注意。

図3 ノーフール



図4 ぎりぎりノーフール(つま先が浮いているならばファール)



図5 ファール



(3) ダブルストローク

- ・フェイスオフの際、相手プレイヤーもボールに触れた場合には、その後のプレーでは誰でもボールに触れることができる。
- ・他のプレイヤーもしくはゴールポストに触れた後はダブルストロークにはならない。(壁はプレイヤーと見なさない)
- ・フリーストロークにおいて、ブレードをボールの下に入れて持ち上げるようなループシュートやパスはヒッティングしていないためファールとなる。(図6)
- ・ブレードを寝かせてボールの下をこするように打つショットは有効。

図6

フリーストロークでこの状態になればダブルストローク



上記の内容について、指導者で情報を共有して指導に活かしてください。

5 会場図

